

# はじめに

弊社は、60年にわたり塗膜はく離剤の製造販売を行っている専門メーカーです。

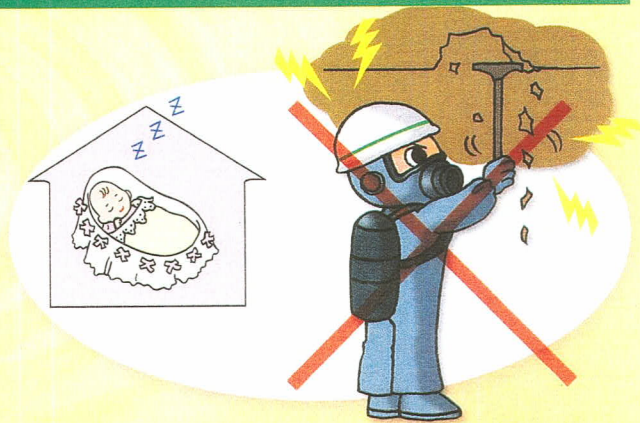
『鋼道路橋塗膜除去新技術 **ネオリバー泥パック工法**』とは、鋼道路橋の維持修繕で行われる素地調整程度2種において、従来のブラスト工法に代わる化学的工法により旧塗膜を除去する新技術です。

トータルコスト低減・作業環境改善・周辺環境改善を3つの目的とし、国土交通省新技術情報提供システム (NETIS) に登録された画期的な工法です。

## ネオリバー泥パック工法の特徴



旧塗膜 (有害物質) の飛散を防ぐ



騒音の低減

### 対象塗膜別に最適な薬剤の選定が可能！

塗付条件：気温5℃以上 湿度85%以下



#### 夏期作業時

ネオリバー泥パック  
橋梁用

B 塗装系

C 塗装系

D 塗装系



#### 冬期作業時

ネオリバー泥パック  
橋梁用TypeII

A 塗装系

B 塗装系

C 塗装系

D 塗装系

ネオリバー泥パック  
橋梁用TypeI

A 塗装系

B 塗装系

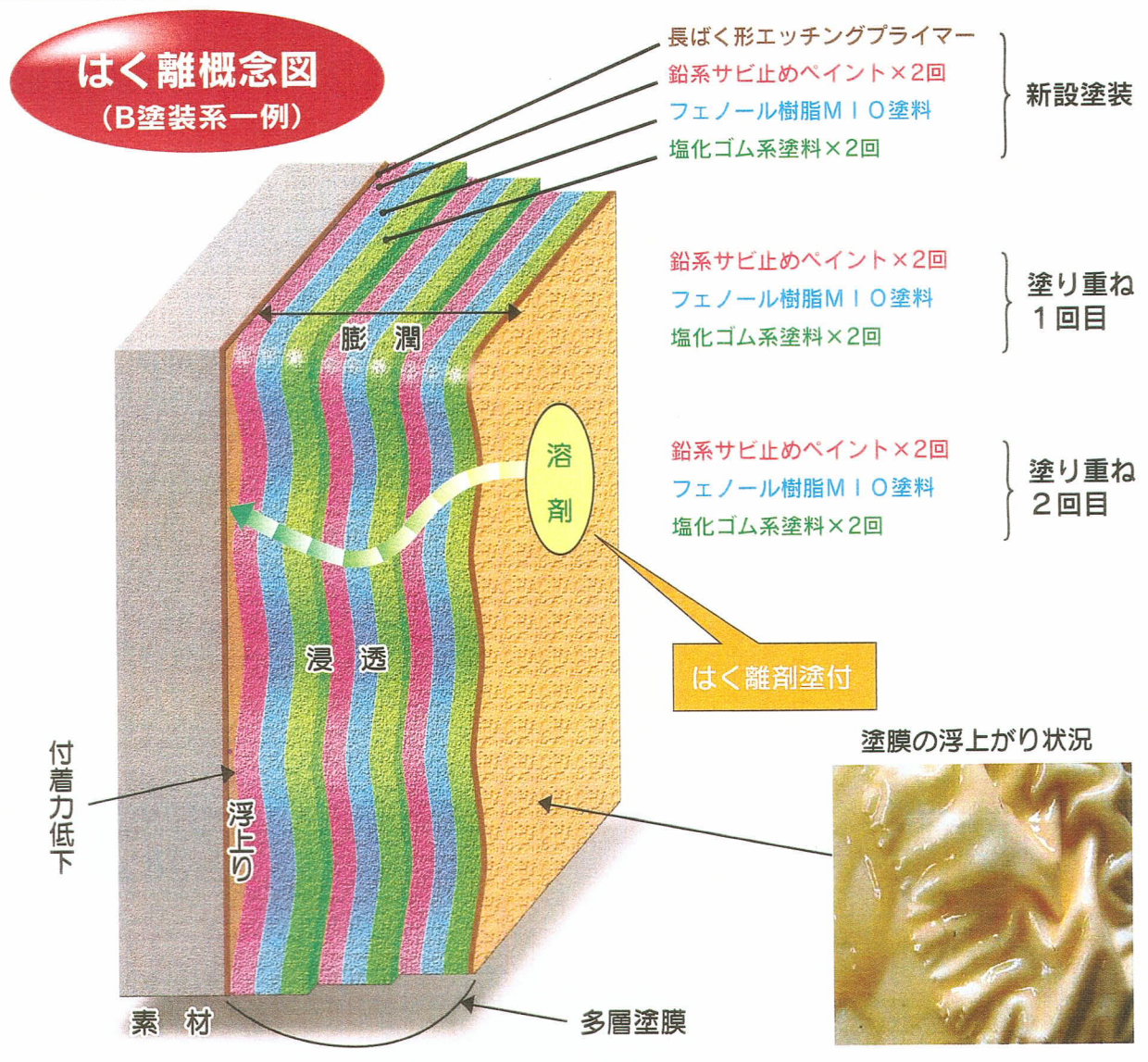
C 塗装系

D 塗装系

# ● ネオリバー泥パック工法のしくみ ●

はく離剤塗付後、塗膜内部への浸透・膨潤作用により素材との付着力が低下した塗膜は、膜状に湿潤した状態で浮上がり、容易に除去、回収が可能となります。

放置後のはく離塗膜は湿潤状態を呈する為、塗膜粉の粉塵飛散を防ぎ、スクレーパー等による塗膜除去作業が容易となります。



	ネオリバー泥パック 橋梁用	ネオリバー泥パック 橋梁用Type I (冬期推奨)	ネオリバー泥パック 橋梁用Type II
A塗装系 (フタル酸系)	○	○	◎
B塗装系 (塩化ゴム系)	◎	◎	○
C塗装系 (変性エポキシ・ウレタン塗装系)	◎	◎	○
D塗装系 (タールエポキシ塗装系)	○	○	○

◎：特に優れる ○：優れる △：やや劣る

## ■ 性状・環境安全データ・関係法令

品名	ネオリバー泥パック 橋梁用	ネオリバー泥パック 橋梁用Type I	ネオリバー泥パック 橋梁用Type II
タイプ	溶剤系	溶剤系	水系
外観	茶色ペースト状	茶色ペースト状	乳白色高粘性状
比重	1.0 (20℃) 「代表値」	1.0 (20℃) 「代表値」	1.0 (20℃) 「代表値」
液性	中性	弱アルカリ性	中性
臭気	弱溶剤臭	弱溶剤臭	微溶剤臭
生分解 <sup>*1</sup> 性	82%	77%	94%
魚類急性毒性試験 <sup>*2</sup>	420mg/L	750mg/L	350mg/L
毒物及び劇物取締法	非該当	非該当	非該当
消防法	非危険物 <sup>*3</sup>	非危険物 <sup>*3</sup>	非危険物
有機溶剤中毒予防規則	第3種有機溶剤含有物	第3種有機溶剤含有物	非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	産業廃棄物	産業廃棄物
水質汚濁防止法 <sup>*4</sup>	生活環境項目	生活環境項目	生活環境項目

詳細については各製品のSDS（製品安全データシート）をご参照ください。

- \* 1) OECD化学品テストガイドライン301Cに準拠して、易分解性の判断基準は60%以上であり、各製品とも微生物により分解されやすい製品です。
- \* 2) OECD化学品テストガイドライン203に準拠して、ヒメダカに対する96時間急性毒性試験を実施した結果、各製品ともLC50：100mg/L以上であり、有害性は低くほとんど影響ないものと思われます。
- \* 3) 消防法上は非危険物に該当しますが危険物の規制に関する政令の『指定可燃物可燃性固体類』に該当します。
- \* 4) 水の汚染状態を示す生活環境項目（pH、BOD、COD等）に分類されます。

## ■ 付着性試験

旧塗膜をはく離後、塗替え塗装系への付着性試験（アドヒージョンテスト）を行い、付着性に影響がないことを確認しました。

（写真参照）



引張り付着性試験